

じゃっど

1999年12月22日

2000年を前に、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今年のじゃっどツアーの参加は、中村律子さん（学校図書館司書）と小幡順子さん（学校栄養職員）でした。今年もラオスのタットルアン祭りにあわせて日程を組みました。バンコクから車で国境を越えてヴィエンチャンへ行くという初の試みがありましたが、いつもよりゆっくりとした旅でした。

ラオスの現状を見る、じゃっどの活動の様子を見る、机いすに名前を書く、新しい援助校の決定、を主目的に、国立マホソト病院への毛布贈呈、ツアー参加者からの文房具贈呈も行いました。また、じゃっどの援助でできあがった学校のお祝いに招待されていましたし、タットルアン祭りとその前夜祭、夜店に行く、おいしいものをたくさん食べる、村の生活を見るなど朝早くから夜までいろいろとありました。

第8回 じゃっどツアー 1999年11月

日	曜日	
18	木	09:20 鹿児島発 福岡経由 15:50 バンコク着
19	金	06:30 バンコク発車で北上ノンカイ経由 18:00 ヴィエンチャン着
20	土	午前中：ノンサワン、サムケ、アモン小学校の施設視察 ドンヌアン小学校で学校建設完成式典出席、食事も。 午後：ヴィエンチャン市内観光
		朝市見学
22	月	ノンコー、ファクア、タットルアンカン小学校訪問、 ラオス国立マホソト病院訪問 ドンヌアン小学校へ机イスの名前書き タットルアン祭りパレード見学、夕市見学 多々良友加利さんヴィエンチャン着
23	火	06:00 ソムチット、コンサップ家に集合、タットルアン祭りに参加 ドンヌアン小学校へ机イスの名前書き ゲストハウスで視察した学校、援助対象校の選択など話し合い ラオス側スタッフと夕食会
24	水	10:35 ヴィエンチャン発タイ航空 11:40 バンコク着
25	木	08:20 バンコク発 12:05 香港着 14:20 香港発 18:00 鹿児島着

鹿児島東急ホテルから頂いた毛布をラオス国立マホソト病院へ届けたのですが、毛布は純毛の高品質で大きいサイズですので重さ、大きさもあり、鹿児島から福岡への飛行機では制限を越えていましたので、同じ飛行機に乗る他の乗客 3 人をお願いしてその方々の荷物として、載せてもらいました。その場で急にお願いしたにも関わらず、気持ち良く受けていただいて有り難かったです。ありがとうございました。福岡からの国際線は一部機内持ちこみにしてどうかお目こぼしをいただいて OK でした。

日本からの物品は輸送費、運び賃、時に税金がかかるので、これまでほとんど行っておりませんでした。ビエンチャンも寒い時がありますし、病院の毛布は患者さんが家から持って行っています。そのことを思い、重さを考えずに頂いてしまいました。持っていけるだけ持って行きましたが、残りの毛布は川内で買っただき、そのお金でラオスの毛布を買うことにしたい。と考えています。ほとんどの物は現地調達が一番安く、多く配ることができます。

今回は、帖佐理子が現在バンコク在住で車の手配などやりやすかったので、バンコクからミニバスでラオスへ向かいました。途中休憩を繰り返しながら 9 時間かかりました。携帯電話で連絡を取り合って、大きなショッピングセンターに寄った後タイ側の国境行きバスターミナルで、ラオスのソムチット医師、コンサップ医師、ノイ薬剤師のお迎えを受けました。国境ではコンサップがマホソト病院からの公式文書を持ってきてくれたので税金は不要でした。毛布を 100 枚航空便で普通に送ると 50 万円、船便でも 30 万円かかります。「ラオスの病院に毛布を送ろうプロジェクト」を計画します。後日詳しくおしらせいたします。どうぞご協力ください。

訪問した学校は 8 校です。ソムチット、コンサップ家からタットルアン寺院に行く途中にあるので、じゃつどと名前の入っているトイレだけ覗いた学校をいれると 9 校です。

ノンサワン小学校、ドンヌアン小学校、タットルアンカン小学校については中村律子さんのレポートをご覧ください。

サムケ小学校（生徒 170 人・先生 5 人、対象校）井戸は他の NGO により設置されているが、1 年過ぎ、現在は水は出ない。使えない状態学校の隣に水道用の高架タンクあり、村で水道を引いた。蛇口は校長先生が毎夕はずして帰り、翌朝取り付ける。水道蛇口が教室まで遠い。トイレは無い。

アモン小学校（生徒 225 人・先生 6 人、新対象校）他の NGO により設置された井戸は水が出るが、手押しポンプに大変な力を必要とされるので使っていない。（順子さん、律子さんがポンプを押してみました。小学生には無理であろうと考えら

れるほど力の要るポンプでした。トイレはありましたが使っていません。(汚いから)校舎は新旧 2 棟ありました。校長先生がおでかけ中で鍵が見つからなかったの
で古い棟の格子窓や壁のすきまから中を覗きました。ポスターが貼ってありましたが、それらは手書の理科のポスターでした。肺、結核菌、タバコなどを表現しているようで、なかなか高度でした。学校に面した道路には水道管がすでに引かれています。水道設置の希望がでていますが、低いコストで設置できそうです。トイレは教育とトレーニングが必要です。

ドンヌアン小学校(生徒 216 人、先生 9 人、昨年今年対象校)は、前回訪問時屋根と柱にクラスだけ壁がありました。完成祝賀式典の村長からの報告によると村人がお金を出し合い 3 年間かかって少しずつやっていた、最後にじゃっどの援助で完成にこぎつけたとのことでした。村人の 3 年間の苦勞を思い、村人が作り上げた学校という気持ちがあるのでその後の良い管理につながるであろうと考えました。じゃっどでは工事はなるべく村人をお願いしています。安い事、技術を要しないことからですが、村で作ったという気持ちが大きく育つと思います。方角や窓の大きさなど採光や通風を考えて 1 校、1 校についてプロに指導を仰ぎたいのですが、ラオスの子どもに絵本を送る会の代表の夫君が建築家なので、アドバイスを受けたことがあります。どなたか、建築家、トイレ作りの専門の方などもラオスと一緒に行ってご指導くださるとありがたいのですが。会員のみなさま、よろしくお願いします。

日曜日はナラート村へ行きました。2 年半前に車の通れる道路が村に届き、2 年前に送電線が届いた村です。じゃっどからの援助で、学校と井戸ができました。

(学校の窓と机の一部は阿部貴美子さん阿部雅昭さんからの援助です。)トイレは南風プロジェクトが設置しました。残念なことにトイレも校庭も荒れていましたが教室は 5 クラスのうち 1 クラスは、きれいでした。きれいにできる先生がいるというのは救いです。

ナラート村は、すぐに一周できる村です。ぶらぶらと村の中を見せてもらいました。校長先生の家、お店、精米所、そしてなんとラッキーなことにラオラオ(ラオス焼酎)を造っているところを見ることができました。ちょうど蒸留を始めたところで、最初のアルコール度のとても高い部分を味見させてもらいました。口から火が出そうでした。

ノンコー小学校(生徒 276 人・先生 8 人、新対象校)では、校長先生、村長、副村長 2 人のお迎えを受けました。トイレあり、トイレに水はありました。(手桶で水を流す水洗式です。)学校の裏の井戸から毎日子ども達が水くみして運んでいるそうです。水道は学校の前まで引かれているのですが学校に蛇口を作るのに 200 ドル(約 2 万円)かかると見積もりをもらいあきらめたそうです。公共施設とし

て申請しなおしを等ソムチットが話していました。新しい見積もりをもらい、水道を設置するか、井戸だけで十分かをラオスのスタッフ達と検討して決めたいと思います。

ファクア小学校(生徒 184 人・先生 6 人、新対象校候補)は、校庭も教室もゴミが多く井戸の中にゴムぞうりが浮いているのにはびっくりしました。トイレはかぎがかかっていて多分先生達の専用になっているようでした。生徒はトイレを使いたいときは先生に鍵を借りると説明しましたが、子ども達が間に合うのでしょうか。壁がレンガを積んだだけなので、セメントで覆いたいと援助申請がでているのですが、壁はセメント無でも、危険はなさそうでした。教室の机いすの取替えのほうを優先させた方が子ども達への直接的な援助になるのではとソムチットが言っています。学校の汚さを校長先生は校庭の一部に不法占拠している家族のせいにしていました。確かにそのようです。とても大きな村で考えて欲しい問題です。南風プロジェクトが歯磨き指導をしていると聞きました。南風プロジェクトは村人の健康事業を行っているので、南風プロジェクトに任せてじゃっど対象校からはずしたいと帖佐は考えましたが、ソムチットから、低学年の机といすだけでも援助しようと意見が出ています。皆様いかがお考えですか。視察した 3 人は、「低学年の机といすだけじゃっどから援助する。あとは南風プロジェクトにお願いする。」と考えました。

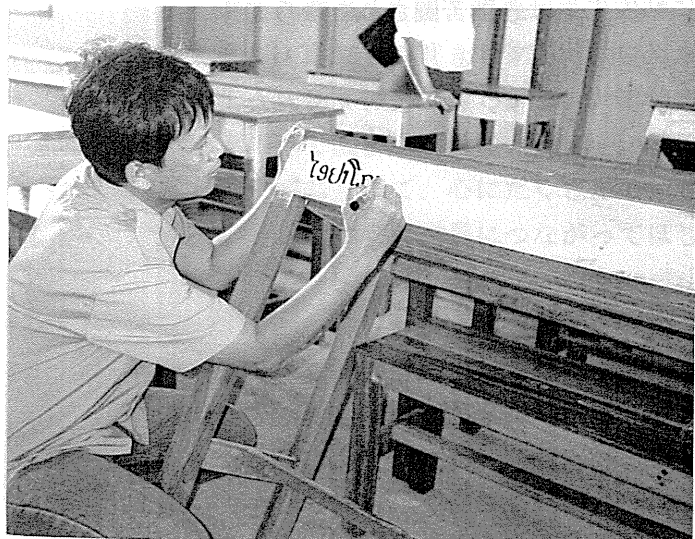
ドンヌアン小学校へ机イスの名前書きの時は多々良友加利さんが合流の後だったので、大変スムーズにできました。多々良さんは青年海外協力隊としてラオスで 3 年すごされた看護婦さんです。ラオス語は話す読む書くがその辺のラオス人より早いです。

今回は学校の授業参観をお願いしています。じゃっどのセミナーを受講した先生達が子ども達にどの様に衛生教育を行っているかを見てもらいました。次回の広報で報告できると思います。

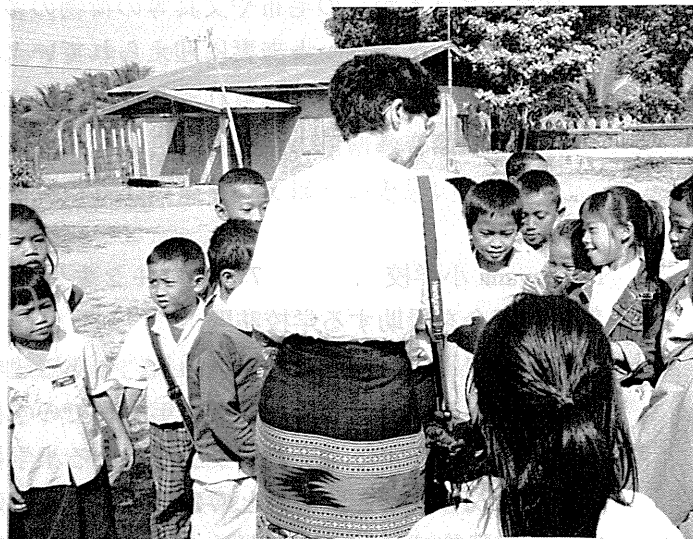
今年はこれまでの活動を見なおして今後の活動をどの様に展開するか、ラオスに根付かせるにはどうしたらいいかを検討します。今回の視察では、ビエンチャン市内には水道パイプがかなり設置されてきている事がわかりましたし、きれいにトイレを使っている学校もありました。経済開放以来、村では寺の再建が始まり、このごろ学校建築にも目が向いてきています。まだまだ中身より外側にこだわる傾向がありますが、少しずつ変わってきています。衛生教育は教育委員会や WHO と関係して行っていけそうです。しかし、机といすがまだまだ足りません。前回指摘されましたように低学年の体の大きさを全く考えていない机です。学年を考慮した机を作り配布したら子ども達が喜びそうです。

会員の皆様のご寄付で、これまでに 246 組の机イスを供給できました。学

校を訪問すると日本語とラオス語で名前の入った机で子ども達が勉強しています。ご寄付くださった方々の名前を先生も生徒も毎日見ながら授業を受けているのです。どうぞ、ご友人など周囲の方々に声をかけていただけませんか。会社やグループ単位でも1組の机イスで3人の子どもが勉強できます。どうぞ、よろしくお願いいたします。(帖佐理子)



机、いすに名前書き



平和の鐘エンピツ（広島相互扶助会寄付）を渡す帖佐会長



大川小、吉田南中からの文具を手にする子どもたち



歌の後ビデオを見る子どもたち

ラオス J ADDO 活動視察

学校図書館司書 中村 律子

どういう訳か、野次馬というか、よく言えば好奇心が強いというか、今回も誘いがあったとき、帖佐会長の講演を聴いたりパネル展を観たりしていましたので、二つ返事で参加させてもらいました。目的としてはやはり学校視察に興味がありました。

バンコクに1泊した次の日は6:30出発。初めての陸路からの国境越え、9時間あまりのワゴン車にゆられる道中も日本にはないのんびりとした大地を見ながらあっという間に車の旅でした。

国境では日本からの毛布や文具等の荷物の多さに帖佐先生は悪戦苦闘されたようです。コンサップ、ソムチット夫妻に迎えられていよいよメコン川越です。川の上に真っ赤な太陽がゆっくり落ちるのが見られ、私達のためにメコンの川の上で、待っていてくれたような太陽でした。

1999.11.20

Nohsavanh 小学校 75生徒+2先生

新しい資金を援助する学校訪問

草原の中に学校？らしい建物あり、今ある建物は1年生から3年生までの学校でした。ラオス全国の小学校の70%が3年生までの学校だそうです。小学校は5年生までですから4年生と5年生は近くの5年生までである小学校へ行くそうです。できれば5年生まで、村の小学校で受けさせたいとの事。村人が校舎建設のための資金援助を申し出ていたそうで、今の建物は、村の人達だけで3年がかりで建てたそうです。まだまだ、便所や水もありませんでしたが、学ばせてあげたいという熱意がヒシヒシと伝わってきました。

11:00

Dohonovame (ドンノアン小学校) 216+9

郵政省の寄付によって小学校建設される。

1995年からJ ADDOではトイレ、水道、職員室、机など援助されています。前回レポートにありました、水道のところのセメントもはってありました。当日、11:00より落成式のお祝いがあり、文部省、村長、郡長、校長、他、村の有志に子供達と式典があり、文部省よりJ ADDOへの感謝状が手渡され、感激しました。

祝辞の中で、郡代表の女性の方が「先生方の質の向上や学校内や便所をきれいに使うことにします。」と言われたのが印象的でした。日本ではあたりまえのことがラオスではあたりまえではなかったみたいです。最後にバージーの儀式に参加しました。そこでは、学校ができた感謝を込めて、ラオスの良い精霊達が私達の旅の安全と、今後の幸せ、家族の幸せを守ってくれるよう、参加者全員でしてもらいました。(一人一人から幸せをとか言いながら腕に細いひもを結んでももらいました。) 後日、机の名前書きに再度訪問しました。

1999.11.22

6 校目

Thatlouangkang タートルアンカン小学校 228+9

タートルアン寺院の裏側にあるビエンチャンの中心部にありました、ほんのわずかな図書棚もきちんと整備され粗末ではあったが手作り教材や展示物もきちっとはられていました。図書棚といっても日本の学級文庫よりも本の冊数も少なく質素な書棚でしたが、掃除も行き届いていました。落第制度もあり、5年生卒業の時は群の一斉テストに受ければ卒業できるそうです。1年～4年までは各学校にまかせてあるとのこと。この学校では図書室の建設希望でした。

今までの学校をみてきて初めて校庭に草がありませんでした。教室の横に1カ所だけ花壇を作っており、名前もわからない植物を植えてありました。まだまだ生活して行くだけで必死の国で図書室建設願いといい、花壇づくりといい、校長先生の情緒教育に対する熱意が強く感じられて、心にたくさんの栄養を与える良書が集まってほしいと思い、そして未来の子どもたちの成長につながってほしいと願いました。

1999.11.23

朝6時、ラオスの正装であるシン(sin)に着替えてソムチット家へ行き托鉢の準備をしてもらい托鉢に行く。全国の坊さん達が集まったのではと思うぐらいの数、でも、托鉢をする人もはんばな人数ではありません。ラオスでは、信心深い人が多く、来世の幸せを坊さんに託すそうです。供物はお金、お菓子、ゆで卵、餅米等。もち米は腹持ちがよいのでラオスでは貧乏人の食べ物だそうです。朝食はソムチット家でもち米、漬け物、ソーセージミンチの卵とじ、ゆで卵等、それを辛いソースにつけて手でまるめながら食べるのです。それがおいしくて…。デザートは国内産のパナナです。

最後に

今回は3人で毛布と文具を持てるだけ持って16枚、450床ある国立病院を視察させてもらい毛布を手渡しました。全員に毛布やシーツが無く、患者さん自身で持って入院するそうです。病院ではたいへん喜んで下さいました。日本から持っていった毛布はウールの高級毛布のためクリーニングが大変とのことでした。日本で少しでもお金に替えられて、タイかラオスで現品を調達した方がいいのではと思いました。

机の名前書きはラオ語と日本語で書き、寄付者の善意が確実に伝わる良い方法としてご夫婦や友達同士、兄弟、姉妹など二人の名前を書くときは私までうれしい思いで心を込めて書かせてもらいました。子どもたちの笑顔を見ながらの名前書きはラオスに来てよかったと改めて思いました。

会員の皆様、ぜひ一度子どもたちの笑顔とラオスの太陽を見に行ってください。

最後になりましたが、現地でお世話になりましたコンサップ・ソムチット夫妻を始め皆様、そして帖佐先生楽しい旅を心からありがとうございました。

昨年「じゃっどツアー」に参加された仮屋洋子さんの「とにかく行っておいで！ 行ってラオスを見ておいで」という一言に「じゃっど」に参加して1年足らずの新米会員の立場で図々しくも「じゃっどツアー」に参加させていただきました。ラオスの様子は、会報紙や総会での帖佐会長の話で少しはわかっているつもりでした。しかし「百聞は一見に如かず」の言葉通り発見の連続でした。

小学校に勤務している立場上、普通の方より教育事情には詳しいつもりでしたが、私の常識が崩れる8日間でした。例えば、日本では先生が教卓の前だけでなく子供たちの机の間を歩きながら指導をしますが、今回参観させていただいた学校はほとんどが先生は教卓の前にすわっているだけでした。「自分たちで考えて自分たちのやり方でやってみよう」ということでよくグループ活動を取り入れた授業もしますが、グループ学習かな？と思う授業をしていたのは1校だけでした。

もちろん私の専門領域である「学校給食」もなく代わりになるのか、どの学校も学校敷地内またはそれに隣接するところに購買部がありました。購買部といっても日本のように学用品を置いてある様子はなく、ほとんどは飲食品が中心でした。（その飲食品も甘味の強そうな菓子類がほとんどで着色料がたっぷり入っていきそうなものばかり）ちょうど10時くらいの休み時間にいきあわせた学校では、子供たちはいっせいに菓子を買いに教室から飛び出していきそれぞれ食べ物で口を潤していました。そういえば、授業時間中にさえフォー（あっさりした麺類）をすすっている子供も数人いました。そのせいか、学校や教室におやつや袋が散らかっていて、最近「必ず教室にほうきとごみ箱を置くように」と政府から指導がいつの間にか行われていると聞いても、今まで教室美化などの衛生教育を受けたことがない先生たちの指導ですからどこまで行き届いているのか不明です。

そんな中、Dr Somchith を中心としたラオスのメンバーが行なっている教員に対する公衆衛生セミナーや先進地視察などの活動は上記のようなラオスの現状を考えたとき、もっと充実拡大しなければならない活動だと思いました。聞けばラオスの教育制度はやっと整い始めたばかり。今でこそ大学で教員養成コースをとって教員資格を取得して就職するらしいのですが、少し前までは「小学校を卒業したら小学校の先生」「中学校を卒業したら中学校の先生」といった程度で教員になっていたそうです。今もその頃採用された教員が主流を占めています。地元採用ですから教員の移動もなく、村単位経営の学校ですから県や郡などの定期的な研修システムもあるはずありません。日本では当り前の研究授業や研究視察なんてラオスの教育現場では今までなかった考えなのではないでしょうか。そんな現状の中、Dr Somchith が行なっている研修は各学校の代表を集めるだけでも大変なことなのだろうと思います。

ラオスに行くまでは「なんでNGOが教員の資質向上までやらなくてはいけないのだろう」と思っていました。自分が出したお金は机や椅子、あるいは建物のように形のあるものとしてラオスの人たちに役立ててほしいと思っていましたが、ラオスという国を考えたときこれからの教育を支えていく教員の資質向上こそが一番必要なことではないかと私なりに考えることでした。そうでないと、せっかく送った校舎やトイレも数年後には「何のために送ったのだろう」と思ってしまいそうです。「じゃっど」の活動が「今」だけでなく「十年後」「二十年後」を見据えるのなら、これからはもっと衛生教育を中心とした教員の資質向上に力を入れるべきでしょう。

ラオ料理はおいしいらしい。あの本もこの本も東南アジアではラオ料理はおいしいと書いてある。タイもベトナムもおいしかった。その上をいくというラオ料理ってどんな味なんだろう。と思っていたら、「ラオのごはんはおいしいよ〜。ラオ料理はもちろん、フランス料理もイタリア料理もおいしいよ〜」という昨年参加の仮屋さんの言葉に、「おいしいものたくさん食べて、写真をいっぱいとりたい!」という下心で申し込んだ今回のツアー。期待通りおいしいものをたくさん食べることができました。普通のパックツアーだときれいなレストランに連れていかれ「普通の人が食べているのと同じですよ」と言われながら、どこかよそゆきの食事をするのですが、今回は本当に普通の食事を食べ尽くした8日間でした。

まず主食が「コメ」というのが良い。わたしは典型的日本人で、米がないと落ち着かないタイプ。ラオスでは朝食の時1日分の餅米を蒸しておき、それを3回の食事で食べます。この餅米は日本の物と比べると細長く、一見タイ米風。しかしモチモチとした歯応えのあるおいしい餅米です。餅米にあきたらタイ米を使った炒め御飯もあり、これもまたあっさりとしておいしいでした。ラオスの食事紹介でかかせないのが「カオカーオ」。青竹の中に餅米とココナッツミルクを入れ、青竹ごと焚火に立て掛けて御飯を炊いたものです。お店で売るときは竹の焦げたところを削り落として1本いくらかで売っています（竹の太さ、長さで値段が違います）作り手の好みや、ココナッツミルクの甘さでお店ごとに味が違うのがポイントです。

はまったのが「パパオヤサラダ」。青いパイアの千切りを使った唐辛子のきいた和え物です。1回目のチャレンジはタイ・ノンカイのクーポン食堂。注文したところ、「ねずみのフン」といわれる世界で一番辛い唐辛子を6本搗り鉢に入れたのですが、わたしの顔をじっと見たお姉さんは内2本を搗り鉢から取り出し(!!)作ってくれました。辛いのは辛いのですが、辛さの中に甘さや旨味や酸味が不思議なハーモニーを生み出している一品です。日本でもラーメン屋の味が一軒ずつ違うように作り手が違うと味が違い、行く先々で注文したのです。辛いのがダメだとしても、注文の時一言言えば、大丈夫です。お店のお姉さんに「子どもサイズですね」と言われるのが嫌でなければネッ=

「辛いのがダメだからラオスに行くのはPASS」と思ったあなた!ラオ料理は基本的に塩味がメイン。各テーブルに四つの必須調味料（唐辛子・砂糖・塩・ナンプラー）が置いてあり、自分の好みに調整できます。特にフォー（米で作った麺）などはあっさりしていて塩味のみ。タイのように初めから大量の唐辛子がいっているということはありません。麺食いのわたしとしては毎日でも食べたい一品です。

その他にも、ベトナムの「生春巻き」のようなものとか、ラオソーセージとかおいしいものたくさんあります。わたしの弟は小学校卒業記念誌に「世界中のおいしいものを食べ尽くしたい」と将来の夢を書いた男ですが、同じ血を引くわたしとしては、ラオスをまだまだ食べ尽くしていないというのが本当のところ。機会があればまたラオスを訪れ、今回食べ損ねたラオ料理を食べ尽くしたいと思います。

1999年10月9日(土)

枕崎市市民会館にて

保育園園長 山本恵美子

皆さん今日は。

今日はお忙しい中たくさん集まって頂きましてありがとうございます。

ボランティアに興味を持ってくださってこうしてわざわざお出かけ頂いてとても嬉しいです。と同時にこのような場所でこんなに大勢の人の前で話をするのは初めて、ましては講演会というのも生まれて初めてのことで緊張と不安で少し心配になっています。

実はじゃっどのメンバーではあってもみんなの後ろからやっこついていく状態の私にとても簡単に『ラオスで見たことをそのまま伝えればいいのよ。じゃっどの活動を報告すればいいのよ。』とむりやり引き受けさせられたのです。そのおしつけをしたのが今日サポートしてくれるおなじメンバーの田中さんです。今日はスライドを手伝ってくれます。そんなわけでまあしかたないこれもボランティア活動の1つかなと思って今こうして皆さんの前に立っているのですがもう1つすごくりっぱなポスターを作っていたかなりのプレッシャーも感じています。これから1時間という長い時間の中ですが私が皆さんにどれだけのことを伝えられるのか不安ですがどうぞ最後までお付き合いください。

さてボランティアとか国際協力とかいうとたいそうなことをやっているんじゃないかと期待して聞きに来て下さっている方がいらっしゃるのかもしれませんが そんな方には少し期待外れになるかと思えます。

というのも私自身がラオスに行くまではかなりボランティアというと「特別なこと」とか「すごいこと」「私にできるのかな」といった先入観を持っていたんですね。皆さんの中にも或いはそういう思いの方もいらっしゃるかもしれませんがでもラオスにいてそうではないな。どこにいても友達のように困ったら手を差し伸べる・・・そう手と手をつなぐこと。足りない人へは足りてる人が補う・・・補い合うことでもある。

力がなければ力をつけるまで支えていく。難しいことではなく気持ちがあれば誰にでもできることなんだと思えるようになりこれまでの偏った思いや気持ちを・思いこみをときほぐす頭の体操が私の中で始まったばかりというところです。

でもこの講演会のための準備をしているうちに自分の中でボランティアとか国際協力についてそしてこれからの活動についての整理ができたことは私にとっては大きな収穫でした。ラオスを、いましていることを再確認できましたしそしてやっぱり続けよう続けたいという思いを持ちましたから。

今日はそんな思いも含めて皆さんの大切な時間をいただいているのですから私なりに精一杯民間ボランティア団体がどんなことをしているのかじゃっどの活動を通して話をしてみようと思います。

NGOの活動をしている団体は日本に・鹿児島にもたくさんあると思うのですが私がメンバーになっているじゃっどはもちろん川内で生まれました。川内の病院の医師である帖佐氏がご主人の赴任先のラオスを訪ねてある学校の見学にいきそこの現状に驚き心を痛め『何かできないだろうか。』ということで文房具や校舎の補修費の寄付をされたのがきっかけだと聞きました。ラオスのことを知れば知るほど素朴な暖かい人たちに関われば関わ

るほど何かしたい・何かしなければとの思いが強くなってこれから先もず〜っと援助を続けるには個人よりグループで・組織でという考えに周りの人達が「じゃっど・じゃっど」と賛成したことから会が始まっています。皆さんもご存じだと思いますが外務省管轄の国際協力事業団は JICA（じゃいか）と略されていてそれを鹿児島弁でいうと じゃいか？ になります。

その「じゃいか？」に「じゃっど」と応えたいとの願いもあって“じゃっど”の誕生となるわけです。鹿児島弁も捨てたもんじゃないなと今さらながら故郷の言葉を見直した私でしたが・皆さんはいかがですか？ すごいでしょ。海外で通用するんですから。海外に通用させてしまうんですから。

そう言った訳でじゃっどの名前の成り立ちはなかなかおしやれですよ。そしてなんととても素敵でしょ。中身はとくればこれまたもっと素敵です。ボランティアを素敵とは変な表現かも知れませんが私たちの代表の帖佐氏のパワーはすごい。思いや情熱は並のものではない。民間ならではの相手の顔を見ながらするボランティアを目指すというところからもその実績からもやっぱりとても素敵です。

この じゃいか？ じゃっど！の言葉で表現できるような気持ちの通い合う暖かな援助を目指しています。そのじゃっどが主な活動にしているのがこれからおはなしますラオスという国。ラオスの人たち。

特に『ラオスの子供達の健全な育ちと尊い命を守りたい』との願いから保健衛生教育を行なっていくことなのです。

具体的には1つには学校の設備（校舎の補修・トイレの建設・井戸掘り・椅子・机・黒板を揃えること）また子供達への健康教育（健康診断・駆虫薬の投与・教材作成など）それから教師への教材活用セミナー（これも大事な活動です。先生といっても先生自身が小学校しか出ていない人も多いのです。だから日本から専門化を派遣して教材を使った授業のやり方のセミナーをしています。）、もう1つは文房具の供与です。

これらを年2回のラオスツアーや現地のスタッフを交えて少しずつですが確実に実績を残してきています。この現地のスタッフに恵まれていることがじゃっどの強いところで「本当に相手の顔を見ながらするボランティア」を実践していると誇れるところだと思います。でも保健衛生教育をするのにどうして学校の設備なのか？ 文房具の供与が必要なのかと疑問もあるかと思いますがロビーのパネルを見てくださった方はそうか、そうだろうなと思われた方もいらっしゃると思います。そうなんです。今の日本では本当に考えられないくらい粗末でまた屋根だけの学校、電気もない トイレもないというように設備が整っていないんです。私がいった学校でも壁のない教室、壁はあってもすき間だらけじゃっどの支援でトイレもできていましたが安全や管理のために鍵がかかっていて日常的に使えるというものではありませんでした。ただ今年 1999 年 6 月のツアーの報告ではやはりじゃっどが支援して作った学校のトイレが終日鍵なしで使われていたとあります。1 つ進歩。

またきっと手洗いをすれば少なくなるだろうと思われる下痢もその習慣どころか井戸がない、水道がないために十分な手洗いができない状況です。

ポスターを使って手洗いやトイレでの排便排尿が病気を防ぐのだと伝えたくてもその前に学校も満足にない教材を使う授業をやったことのない先生たちが多いなどいろいろな問題があるのです。だからそこからが活動になっているということなのです。

～～～

ちなみに1994年に行ったアンケートによりますとある小学校で90人を対象にしたものですが自宅に井戸のない人 40人 水道 トイレのない人 下痢・寄生虫・目皮膚の病気の数による説明

これは都会の学校のことで郊外では増えることが想像できること ～～～

こういった事情・状況からじゃっどの活動は環境づくりというのか体勢を整えることから始めざるをえないのでそのための活動資金がかなり必要になってきます。ではここでそのじゃっどの活動資金について少し触れさせていただきます。

現在会員の会費（北海道～沖縄まで約240名）年2000円と個人からの寄付そしてかなりウェイトを占めているのが今日主催していただいている郵政省のボランティア貯金からの援助金でそれらがじゃっどの活動のための資金となっています。

じゃっどは1992年から活動は始まっているのですが当初は個人或は団体からの寄付によるものでした。それが1994年それまでの実績が認められ郵政省から初めて1932000円の配分金をいただきました。翌年は3090000円それから毎年金額に変動はあるもののかなりの配分金を贈られそれによって活動も確実にそして継続的なものができ現在はこのように机・椅子の設備にも力を入れられるようになっていきます。県下いや全国的にも毎年ボランティア貯金から支援を受けている団体は少ないとのことで実績を認めて頂いているのだと思います。

この席をお借り致しましてですが郵政省にそしてボランティア貯金に協力して頂いている直接には知らないかたがたの好意にお礼を申し上げます。ありがとうございます。この中にもきっといらっしゃるでしょうね。ボランティア貯金に協力してくださっている方々が。合わせて本当にありがとうございます。

さてさてラオス ラオスといいますがラオスがどこにあるか皆さんはご存じでしょうか？私はそんな国があることさえ恥ずかしながら知らなかったのです。

ではまず地図で位置の確認をしてみましょうか。

カンボジア（アンコールワットの遺跡・・・・

タイ（今や日本人の観光地・・・・

ベトナム（悲惨な戦争・・・・

地図による場所特徴による説明～～

とかいうように周りの国々は良いにつけ悪いにつけいられていますがそんな国々の間にはさまれた山がちの国でめだたずに開発が遅れたようです。ここでラオスの状況をお話しますと面積が23.5万km²（日本の本州と同じ位）

人口が503.5万人程

そして5歳未満児の死亡率が128／1000（ちなみに日本は6／1000）

高い死亡率といえます。

学校の建物は学校のある村の責任で建設され国の予算は殆どないといえます。

ラオスの教育は？という小学校が5年 中学校が3年 高校が3年で義務教育は小学校だけ。ただ登録料がいるため就学率は低く小学校を卒業するのは半分程度。

ただ今やラオスも周りの国々との国交が盛んになりめきめきと変わりつつあるようです。これから見て頂くスライドは私が訪れた平成7年のラオスの状況です。きっとまたこの数年でかなり違うところが見られると思いますが今までの話を思い出しながら一緒に見

～～～

のどかな風景から

生活 学校の様子・特徴 じゃっどの活動と目に見える実績
(粗末さ ラオスらしいところ 感じたこと・・・)

スライドによる説明

～～～

いかがでしたか？

画面からも感じて頂けたと思いますがゆったり時が流れ穏やかで素朴で日本が今失いかけている心の通い合う親子の関係がありものの豊かさや便利さなどで量らないとしたらラオスこそが豊かで幸せとも言える気がします。

だから ボランティアといいながら大切な 失ってはいけないものまで侵すことのないように相手をよく理解して援助していかなければと思います。

アジアでもアフリカでも支援を必要としている地域や国はたくさんあります。ただ何かしたいという思いはあっても限られたことしかできません。一口にボランティアといっても対象者も活動もさまざまですが今じゃっどのメンバーはラオスに出会っています。だからラオスがこれから発展していくための力となる幼い命を守ることやその子供達の健全な成長を援助し見守り続けたいと願っています。日本のことを考えるといろんなことがぜいたくだと思います。生まれた国が違うだけでこんなに差がある。でも生きる権利命の重さには変わりはない。日本でもラオスでも。だからラオスの子供達も日本の子供達と同じように健康に育つために大人の意識を目覚めさせたり子供達へも自分自身で健康を守る手段や生活を伝えたり幼い命を守れるような環境への協力をしていけるといいなと思います。これからもじゃっどではハードな面と共に現地のスタッフに協力を依頼し井戸やトイレが確実に使われ生活の中に根ざしているか調査を含めながら地道ですが活動を続けていきます。

小さな思いや、やさしさが民間の活動を支えていると感じています。

ボランティアにあってラオスからたくさんの大事な失ってはならなかったことを感じました。 ♥ おたがいさま ♥

ボランティアをそう思えたのはやはりいったからです。たくさんの人たちに出会ったからです。聞くのと見るのとでは違いました。感じるんです。五感に伝わるものがあります。ボランティアは一方的なものではなかったんだと実感できました。一回にできることはささいなことです。でも続けていくこと一緒に考えていくことを大切にしていきたいと思います。

ラオスを思い出しながら改めて ボランティアについて国際協力について考えたいと思います。こんな機会を与えてくださったこと

そして最後までお付き合い下さったこと感謝しています。

今日の会のためにじゃっどの仲間がいろんな面でサポートしてくれました。そして枕崎郵便局の土屋様には大変お世話になりました。

今後もボランティア貯金が有効に使われるよう現地のスタッフと連絡をとり合って応援していきます。今後もじゃっどへの支援もよろしくお願い致します。
ありがとうございました。

【事務局からのお知らせ】

1, 新規会員（99, 8月～99, 11月）の皆様です。（以下、敬省略させていただきます。）

橋口正美、川野治美、

2, 平成11年度会費納入の皆様です。（99, 9月、10日以降）

矢野信之、橋口喜久、知識友弘、松元邦明、佐藤章子、田中律子、橋口正美、
梅木多津子、川野治美、立野文行、諏訪元則子、

3, ご寄付の皆様です。

知識友弘、江口紀子、

4, 机、いす募金のご寄付の皆様です。（99, 9月、10日以降）

安部良宣、林美知子、高田久美子、阿比留正広、裕美、案浦由美、原田暁子、古田宣稔

5, 平成12年度から自動引き落としの手続きをされた皆様です。

高木史江、

6, 会費が未納の方（12月15日現在）には、再度郵便振替用紙を同封いたしました。

当会の平成11年度決算期末は平成12年6月30日ですので、なるべくお早めにご
納入くださいますようお願い申し上げます。

また、退会を希望される方は、ご連絡下されば幸いです。

*お詫び：前回（9月10日号）の会報誌に郵便振替 口座番号の記載ミスが、あり
ました。 02050-2-4746が、正しいです。

7, じゃっど活動資金の為の寄付、机、いす募金にもご協力下さい。

《じゃっど活動日記》

10月9日 国際協力講演会（枕崎市民会館にて）講演内容載せてあります。
お読み下さい。

10月20日～10月24日

パネル展（川内市隈之城ブラッセ大和にて）

「こんな暮らしもあるんだよ」をテーマに、青年海外協力隊OB、
じゃっどサポートチームが中心になりパネルを作成し展示しました。
また、「アルパ」の演奏を馬場真理先生（串木野中）にお願いしました。
ご協力くださった皆様有り難うございました。

10月25日号「広報せんだい」の記事に載せていただきました。

11月18日～11月25日 ラオス視察ツアー

今回は、会長を含め3人の会員の方に参加していただきました。
感想をじっくりお読み下さい。

11月22日～12月1日 じゃっど専門家派遣（看護婦）

多々良友加利さん（名古屋在住）にお願いしました。
次回の会報誌でお知らせします。

11月28日 ユースフェスタかごしま in 川薩（当日パネル展参加）

当日お手伝いいただいた会員の皆様、有り難うございました。

12月24日～1月5日 じゃっど専門家派遣（看護婦）

野澤美香さん（岐阜在住）にお願いしました。

どうぞ、次回の会報誌を、お楽しみに。（宮脇美智子）